

春の彼岸によせて

平成二十年三月 大乘寺 住職 岡 光俊

今回は、独り善がりについてお話したいと思います。

人の悩みというものは、尽きないものです。悩みを聞いていて面白いことに気づきます。多くのかたは、他人のことや相手のかたの非難、悪口は話されませんが、自分の悪いことを話されるかたはまずおられません。それどころか、自分のことは褒められます。

おかしいとは思いませんか。そのようなことが日常の生活の中で当たり前になっているのです。

人は皆、「自分は正しい」というところからすべてスタートしているようです。

この世に本当に正しい人、間違いをしていない人が存在すると思いますか。

皆さんはこの問いかけには全員ノーといわれるでしょう。しかし、人間は自分だけは別なのです。自分が正しくないという認識は皆無なのです。ここが今回の話の要です。それほど人は自分の間違いに気づくことができない生き物なのです。ですから、日常生活で考えかたを改めようと思う人はいないということです。

皆が皆、毎日をこのことを基準に生活しているのですから、親子、夫婦、兄弟、上司、同僚、あらゆる人間関係で何年、何十年と悩みや問題が解決しない原因の一つはここにあるということです。

「バカは死ななきや直らない」という語句も正確には間違いのようです。お釋迦さまは、魂たましいに肉体を与えられる縁を次のようにお説きになっっています。

過去に犯した罪咎つみとがを身に受けることにより、己おのれはどのような間違

いをしてきたか肌で感じ気づくことができる。故に、すべて肉体のあるときに身に受け、肉体のあるあいだに肉体を使って懺悔し改めるためにこの世に肉体を頂いたのである。

即ち、生きているあいだに己おのれの愚かさに気づき、改めることができた者はよくなるのであって、改めないまままで死んだ者は死んでも直らないということが真実のようです。

しかし、それでは、人としてこの世に生まれさせて頂いた意味を失うことになります。そこで、独り善がりの恐ろしさをお話して、皆さまに気づいて頂ければと思います。

独り善がりは字の如く、この世で自分だけ善いと思っている人のことです。周りは全部間違っていると感じて生活している人です。人間は、間違っていると思っている人のいうことは絶対聞こうとしません。正しいことをいっても間違いとしか聞かえないので、独り善がりの人が自らを改めることは望めません。家庭でも会社でも、独り善がりの人がいるとその周りはストレスを溜め、精神に異常をきたす人もおられます。

人間は自分を認めてくれる人がいてくれて、安心と生き甲斐を持つことができます。

しかし、先程も申しましたように、独り善がりの人は、周りを一切認めません。家庭のなかや職場のなかで周りを認めようとならない人がいると、安心がなくなり、生き甲斐、やり甲斐をなくし、いい合い、争い、喧嘩が絶えなくなります。周りを認めない人が、周りから認めてもらえらると思えないでしょうが、面白いことに、独り善がりの人は周りは自分を認めていると思いついて、人とは思議なものです。家庭の主や社会的集団の主は、立場と金と権力を振り回して独り善がりになりがちです。

家庭も社会も人が成長する大切な場です。その場はそこにいる全員が一生成長するに必要な環境を保たれていることが大切です。

人は安心と生き甲斐のある環境では大きく成長します。そこにはお互いを深く認め合う心があるからです。深く認め合うなかに気づける注意をもらったとき、人はすぐに改善と成長に向けて努力ができるものです。しかし、人格否定のなかでの注意は反発のエネルギーを生むか、自らの存在を否定する方向に向かいます。相手を認めようとする心は、相手の存在を大きく一杯に生きて活かそうとする心でもありません。家族全員がこの心を持ってたとき、皆が成長し、お互いを活かし活かせる人となれます。

しかし、独り善がりの人がいると、周りを活かすことはできなくなります。特に夫婦の関係を見ればよく分かります。

例えばご主人が独り善がりであれば、奥さまのいうことは聞かないことになりません。奥さまは身近にいて、この世で親より最も客観的に正しく観察してくれている人です。本人以上に主人の改めればよいところを知っているのが奥さまでしょう。この世で最高の先生である奥さまのいうことを聞かない程、愚かしい主人はいないと思います。奥さまのいうことを聞けない主人は、奥さまの存在を活かせてないことになりました。奥さまの存在を活かせない主人が、子供たちを活かすことなどできる筈がありません。まして社会で人を活かすことなど到底できるわけがありません。家庭にあって奥さまの存在を活かせない人は、結局は自分も活かせてないことに気がつくべきです。

二十年生きても、七十年生きても独り善がりの人生は誰も活かすことができない人生となり、最後は自分自身も活かすことができなかった人生となるのですが、そのことにも気づかず一生を終えるのです。

毎日人の話を聞いていると、皆が独り善がりに陥っていることを深刻に感じます。

皆さんは毎日多くの努力をして生きておられます。しかし、努力も己おのれの独り善がりに気づかなければ十年努力をして、七十年努力

をしてもまったく無意味な憎悪だけを残す人生になることは知っておいて下さい。それも、毎日の日常生活のなかで起きていることを。

人を活かすためには、菩提心ぼだいしんが不可欠であるとお釈迦さまは説かれています。まずは身近な人を充分活かせているか、心の底から認め信頼し尊敬できているか、確認してみてください。今からでも遅くはありません。ご自身のなかでそのことができ、相手もそのように思っ頂いていることが確認できれば、ご自身の人生は活かせているということです。

このように日常生活でできる教え、己おのれの明日の生きかたを示し教えている、と書いて宗教といい、一生、己おのれを改め続けることを修行といっています。

親を活かすことができる人はご先祖さまを活かすことができます。霊界のご先祖さまを活かすことができた人が、この世で己おのれを活かせる人であるとお釈迦さまは説かれております。親に多くの喜びを与えられた人に楽しい人生は待っているようです。

宗教は難しいと思っておられるかた、少し視点を変えてみませんか。日常生活の中で、気がついたらすぐに改めていく、このことで人生が好転する。このようなことを説かれているものが本当の宗教です。想像の世界のことを説かれているものではありません。奇跡を説かれているのも、大金持ちになるためのものでも、病が治るものでもありません。また、無知な人間が経文について議論するものでもありません。

難しいことに価値を見いだすことはよいことのように思いがちですが、もっと身近な奥さまや子供や親やご先祖さまを活かすことのほうがもっと価値のあることではないでしょうか。

相手の人生を生き生きと活かしきった人のみが、自分の人生も活かすことが許されるのです。